

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

新年度が始まり早くも半月が経過致しましたが、愛知県では今年度から新たな計画期間とする「あいち地球温暖化防止戦略2030」や「愛知県地域保健医療計画」、更には「第7期愛知県高齢者健康福祉計画」などの重要計画が昨年度末に相次いで策定され、再スタートを切りました。

その中でも今回は昨今の異常気象を踏まえ、地球温暖化防止に向けた県の取り組みについてご紹介させて頂きたいと思いますが、愛知県では平成17年1月に「あいち地球温暖化防止戦略」を策定以降、平成24年2月に「あいち地球温暖化防止戦略2020」へ改定するなどして施策の充実強化を図ってまいりました。

こうした取り組みの結果、我が県の住宅用太陽光発電施設の設置基数や次世代自動車の普及台数は全国1位となるなどの成果を挙げて参りましたが、残念ながら温室効果ガスを2020年度に1990年度比で15%削減するという目標に対し、2013年度は1990年度比8.7%増となるなど、目標達成は非常に困難な状況にあります。

また、世界的には京都議定書に代わる2020年以降の新たな国際枠組みである「パリ協定」が採択・発効され、我が国においても2030年度までの温室効果ガス排出量削減目標を定めた「地球温暖化対策計画」の閣議決定などを受け、県としても中長期的な取り組みを更に積極的に推進する必要性が生じた事から、前戦略の計画期間を前倒しする形で、新戦略として「あいち地球温暖化防止戦略2030」が策定されました。

今後は新戦略に掲げられた温室効果ガス排出量の削減目標である2013年度比26%削減の達成に向け、県民の皆さん・事業者・市町村などのあらゆる主体と問題意識を共有しながら、積極的に取り組みを進めてまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 